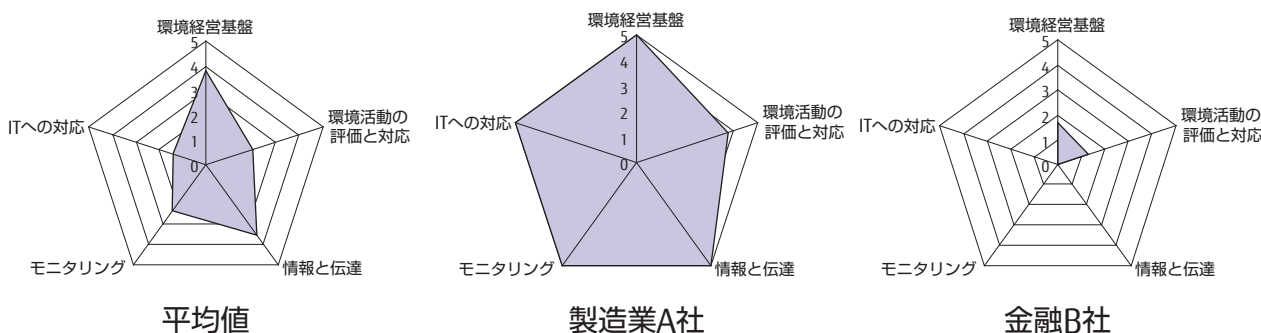


環境経営評価コンサルティングのご紹介

企業における環境経営の動向と課題

環境問題のグローバル化やステークホルダーの要求増加により企業の社会的責任が増大し、法令対応に留まらない自主的かつ積極的な取り組みが求められています。

しかし、各社の環境・CSR報告書の開示レベルは千差万別であり、各企業は環境問題への取り組みにおいて、“何を、どこまでやるべきか？”の判断に迷っている企業も多いのではないかと推測します。



<各業種の代表的な企業の2009年度環境・CSR報告書*を調査>

【環境・CSR報告書から見る課題の例】

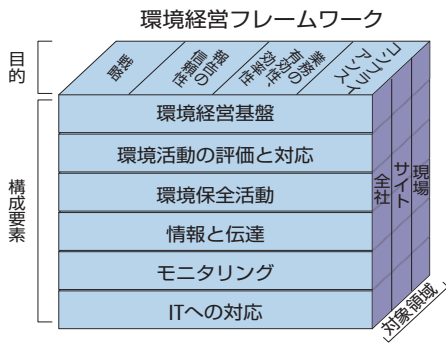
- 環境活動に関する定量情報の開示
 - ・ 環境負荷情報や環境活動のコストと効果に関する開示の範囲が不十分
 - ・ 範囲が子会社や海外拠点に及ばず、連結ベースで情報開示がされていない
- サプライチェーンでの取り組み
 - ・ 「グリーン購入・調達」や「製品・サービスにおける環境配慮」の取り組みの明示がない
 - ・ マテリアルバランスや環境会計の対象範囲が特定エリアに限定されている
- ライフサイクルでの環境負荷の把握
 - ・ 製品・サービスのライフサイクルでの環境負荷が開示されていない

ビジネス環境の変化に対応していくためには、
環境経営の全体像を改めて捉えなおす必要があると考えます。

*調査報告の全文は、富士通総研Webサイトの「オピニオン」をご覧ください。
<http://jp.fujitsu.com/fri/column/opinion/201002/2010-2-1.html>

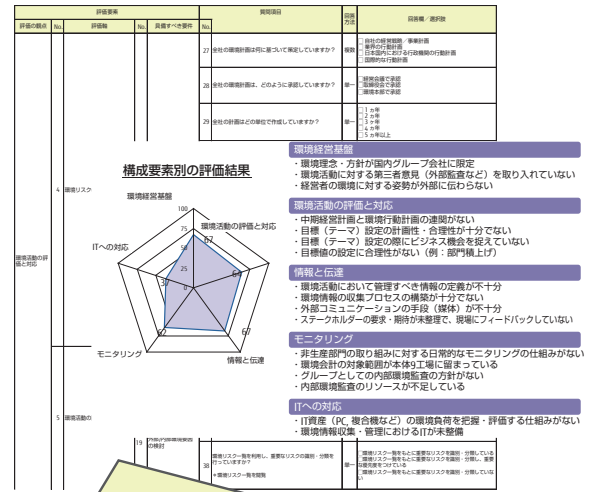
環境経営評価コンサルティングのご紹介

環境経営高度化のためのフレームワーク



- 高度な環境配慮型経営の考え方や手法の概念として、COSO^{*1}が公表している内部統制やERM^{*2}のフレームワーク、GRI^{*3}の提示しているCSRに関わる報告のガイドラインをベースとした「環境経営フレームワーク」を独自開発
- 企業の環境経営を「目的」、「対象領域」、「構成要素」の軸で定義し、経営者が企業内の環境の取り組みを統合的に管理することを支援します。

*1 COSO: 米国トレッドウェイ委員会組織委員会 (Committee of Sponsoring Organizations of Treadway Commission)
 *2 ERM: 統合的リスクマネジメント (Enterprise Risk Management)
 *3 GRI: NGO “Global Reporting Initiative”



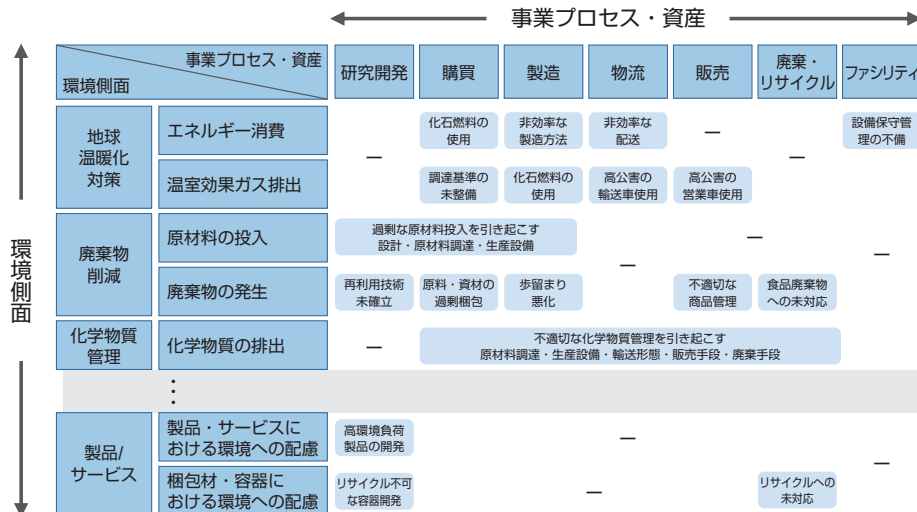
【環境経営評価ツール】
 環境理念・環境経営戦略の策定や環境マネジメントシステムの導入、環境パフォーマンス評価、ステークホルダーとの環境コミュニケーションへの取り組み状況について約100項目の質問により評価

「環境経営フレームワーク」を用いた環境負荷低減と経済価値向上の両立が可能

「環境経営フレームワーク」を用いることで、お客様の環境への取り組み状況を経営の視点から統合的に捉え、環境負荷低減と経済価値向上を両立が可能となります。

「環境リスクユニバース」を用いた環境保全活動の俯瞰が可能

業務プロセスと環境へのインパクト起源の2軸から成る「環境リスクユニバース」を用いることで、環境保全活動を網羅的に俯瞰することが可能となります。



お問い合わせ先

株式会社 富士通総研

第2コンサルティング本部 ビジネスレジリエンス事業部
 〒105-0022 東京都港区海岸1-16-1ニューピア竹芝サウスタワー TEL: 03-5401-8432
<http://jp.fujitsu.com/group/fri/>

